

「何を残すか」

山下慶親牧師

マルコによる福音書 1 3 章 1 ～ 2 節

ヨハネによる福音書 1 4 章 2 5 ～ 2 8 節

岩波文庫に『後世への最大遺物 デンマルク国の話』という小さな本がある。この中で、内村鑑三は後世に残したいものとして、金（かね）、事業、思想の3つを挙げる。しかし、これらを残すには、才覚、力量、能力が必要である。彼は4つ目として、誰でも残すことができる「最大遺物」があって、それは「勇ましい高尚なる生涯」だと言う。信仰者として自分の生涯をしっかりと送ることこそが、「後世への最大遺物」だと言うのである。

マルコによる福音書には、ヘロデ王が建造した神殿に感嘆の声を上げる弟子たちに向かって、イエスが建物の崩壊を予言したエピソードが記されている。古来、世の権力者たちは、自分の権勢を誇示するために巨大な建造物を築いてきた。ヨハネによる福音書には、イエスが弟子たちに向かって、「平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える」と言い、「心を騒がせるな」「おびえるな」と言われたことが書かれている。これまでの世界の歴史で明瞭なことは、イエスが弟子たちの心に残されたものが、大帝国のどんな遺物よりも堅固なものとして残って来たことである。イエスが与えられたものこそが「後世への最大遺物」である。

私たちはキリスト者として、内村鑑三が言うように、「勇ましい高尚なる生涯」を送り、「真面目なる生涯を送った人であるといわれるだけのことを後世の人に遺したい」と思う。そのためにも、イエスが弟子たちの心に与え、私たちの心に与えてくださっているものを生涯大切にしていきたい。